

# 掛川市教育委員会定例会会議事録

教育委員会事務局

会議の名称	平成24年 7 月掛川市教育委員会定例会									
場 所	掛川市役所南館 教育委員会室									
開 催 日 時	平成24年 7 月27日(金)					午後 3 時30分から午後 5 時まで				
次回開催日	平成24年 8 月29日(水)									
出 席 者	委員長 委員長職務代理者 委員 委員 教育委員 教育委員 教育長 教育次長  小野恵美子 松下季徳 松本和子 山井正人 浅井雅文 水野文  教育学務課長 学務課長 学校教育課長 幼児教育課長 社会教育課長 図書館長 教育政策課室長 教育政策課指導主事 教育政策課調整庶務係長  鈴木利之 中根純一 佐藤嘉晃 松浦充 大川原淳 大石弘美 大倉照佳 小関昌典 小川岸道子									

## 【会議次第】

- 1 開会
- 2 6月教育委員会定例会会議録の承認について
- 3 教育長の報告
- 4 協議事項
  - (1) 学校評議員の委嘱について
  - (2) 平成24年度9月補正予算要求資料について
- 5 報告事項
  - (1) イングリッシュイマージョンキャンプについて
  - (2) 中体連大会の激励会について
  - (3) いじめへの対応について
  - (4) 主要事務事業スケジュールについて
- 6 その他
  - (1) 次回定例会の日程等について
  - (2) 教育委員の視察研修について
- 7 閉会

## 【議決事項】

- 1 学校評議員の委嘱について

学校教育課長

学校教育法施行規則並びに掛川市立小学校及び中学校の管理に関する規則、掛川市公立学校評議員設置要綱により、掛川市公立学校評議員を委嘱することについて説明した。

〈質疑・意見〉

なし

審議の結果、本議案は原案どおり承認された。

- 2 平成24年度9月補正予算要求資料について

学校教育課長

英語教育の先進地視察のための経費について予算要求することについて説明した。

社会教育課長

横須賀城跡の暗渠排水の設置と、スポーツ施設で台風４号の被害がだいぶあったので修理に係る予算要求をすることについて説明した。

〈質疑・意見〉

なし

審議の結果、本議案は原案どおり承認された。

【報告事項】

１ イングリッシュイマージョンキャンプについて

学校教育課長

かけがわイングリッシュイマージョンキャンプ事業の日程（８月１日・２日実施）及びプログラムの内容について報告した。

２ 中体連大会の激励会について

学校教育課長

８月６日に中体連東海大会・全国大会出場生徒の激励会を教育委員会の会議室で開催すること、及び種目別大会の日程等について報告した。

３ いじめへの対応について

学校教育課長

文科省・県でも、いじめの調査のあり方や学校の対応のあり方等を再度確認して、いじめ対策の一層の充実を図るように求められていること、及び、掛川市内における「いじめ」に関する状況等について報告した。

委員： 大津の問題があれだけ報道されると、生徒たちもいろいろな考えを持つと思うが、ホームルームとか学校で話し合いや討議はあったのか。

事務局： それを例にしたものは聞いていないが、いじめに関することについては、常に学校側も意識しながら生徒の動きを敏感に察知しながら、何かあれば学活とか道徳などいろいろな時間を使って、子ども達への指導とか投げかけをする。そのような際に事例をもとに討議をする学校もあれば、校長が自ら話をしたりいろんな方法で対応していると思う。

重いケースでは教育委員会の指導主事が出向いていたり、学校に配置されているスクールカウンセラーが話をしたり、詳しく聞いてあげたりとか対応している。

家庭の事情とか子どもの人間関係とか、背景にあるもののとらえが難しい。

４ 主要事務事業スケジュールについて

教育政策課長

四半期ごとの進行管理として、各課の主要事務事業の計画及び進捗状況について報告した。

委員： 予定どおり進んでいるか。

事務局： 各事業ともだいたい予定どおりにいったいといっているといつてよい。滞っているものは特にない。

委員： 先ほど教育長さんから、学力調査の最終的な結論が出るのは１２月ということであったが、それで来年の学校の授業には生きるのか。

事務局： 対象が中学校３年と小学校６年だが、調査をして結果を出すころには卒業してしまうので直接その学年には返せない。指導というか学習の子ども達の思考力とか表現力など

の能力のなかで何が欠いているか、生活する中で何が良いのかをみる。

家庭に関わる問題はすぐには改善されない。思考力の問題もそうで、授業をどうしていくか非常に難しい問題であり、長期的に見ていかないと学校も教育委員会も対応が出来ないのが現状だと思う。

分析をする委員会を9月に立ち上げるが、全国の結果が8日に発表されそれからデータ集計して、それを元に各教科の専門の教師を集めて、そこから見えるもの、単に数値の正答率を見るだけでは分からないので、いろんなクロス集計をして他との関係と比較しながら何が言えるか探っていく。

過去何回かやる中でおおまかところは分かるが、これをやれば、こうすればというところが見いだせない。本来なら実施した学年に返してその改善になっていけばいいが、分析結果が出た頃には卒業というのは少し苦しいところである。次の年度以降にそれを生かして、どうしていったら良いかの参考にする。

市全体、県全体、国全体の傾向をつかむ。

12月頃までに終われば、学校では次年度計画を作るときに役立つと思う。各教科の補強はある程度出来ると思う。

委員： 最初の頃はものすごい労力をかけて全員でやったのに、それは何だったのかという思いはある。

事務局： 前回やったものと内容や質問の中身が違うので比較が出来ない。生活習慣的な所は共通項目もあるので違いがある程度は見えるが、思考力とか表現力など取り方が違えば比較になっていかない。

委員： 何年前からやってるのか。

事務局： 19年度から。抽出校以外でも参加しているのは少ないが、参加率は高いと思う。

委員： 国の問題かもしれないが。毎年すぐ即効性がないのは分かるが、どこかでいつなら反映できるか、毎年繰り返してまだまだ反映できないのは意味がない。5年が経っているならどこかで見切りを付けてもいいのではないかな。無駄なことをやっているのかなと思ってしまう。

事務局： 調査を業者に委託して数字を出してもらおう。前回の結果を見ながら、数字的なものは比較が出来ないが、傾向を見ることは出来るので、今までにはないことだと思う。

委員： テストをやるのも採点も、市としてお金を払うのか。

事務局： 抽出校は国で支払うが、自主参加分は市で払う。採点は業者委託している。

委員： 分析は専門の業者があるのか。どういった分析をするのか。

事務局： 採点と統計、分析と言ってもクロス集計をする。どう見るかという分析はこちらで行う。グラフを作り数値化するところまでは業者が行う。

委員： 先生たちはもっと観察し本質を見ていると思う。紙の上の調査が本当に信憑性があるかどうか。見直した方が良いのではないかな。もっと違うところに使うべきではないかな。

委員： みんな無駄だと思っているなら、一度止めてみたらどうか。止めることは出来るのか。

事務局： 国から抽出でやるところは止めることはできないが、それ以外の所はやらないという選択もできる。

委員： データとしてほしいところがあるから、やりたい先生も居るのではないかな。分析を期待する。

## その他

木製機の情報確認について

美術館の学芸員について

待機児童対策について

「人づくり構想かけがわ」推進本部会議の内容を受けての検討事項について